

科目名	総合日本語4－6A Integrated Japanese 4－6A		新座
担当者	栗田 奈美 (Kurita, Nami)		
開講学期	春学期	単位数	1 単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活のみならず、大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型、読解、語彙、作文、聴解会話について、広く扱う。中級日本語Aでは、読解素材を軸とし、ディスカッションや発表、作文などを行う。テーマは主に、「観光」・「祭り」・「江戸」などを扱う。また、学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業と課題学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では、ディスカッションやグループワークを行う。また、作文や読解などの宿題も課すため、参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要、「観光地」について考える。
- 2-5. 「観光地」に関する読解教材を宿題として読む、授業内では内容理解の確認とディスカッションを行う。
- 6-9. 「祭り」に関する読解教材を宿題として読む、授業内では内容理解の確認と発表を行う。
- 10-12. 「江戸」に関する読解教材を宿題として読む、授業内では内容理解の確認とグループディスカッションとグループ発表を行う。
13. 期末テスト(文法、語彙)
14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度25%、課題25%、提出物25%、期末テストおよび最終プレゼンテーション25%

テキスト

第2～5回は、観光地に関する時事ニュースをもとにしたオリジナル読解教材を使用する。教材は、履修者の読解レベル(J4-6)に対応したものを用意・配布し、学生は自分のレベルに合った教材を使用する。第6～9回は、日本の祭りを説明した生教材を使用する。各自の興味がある祭りの読解教材を1人1つ選択する。第10～12回は江戸の文化について説明した生教材を小グループで読む。作文教材は、履修者の作文レベル(J4-6)に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	総合日本語4－6B Integrated Japanese 4－6B		新座
担当者	谷 啓子 (Tani, Keiko)		
開講学期	春学期	単位数	1 単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活のみならず、大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型、読解、語彙、作文、聴解会話について、広く扱う。中級日本語B では、視聴覚素材を軸とし、ディスカッションや発表、作文などを行う。テーマは主に「若者の消費」・「日本人の未婚化」・「男性の育児」などを扱う。また、学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業と課題学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では、ディスカッションやグループワークを行う。また、作文などの宿題も課すため、参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要
- 2-4. 授業内に「若者の消費」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。
- 5-7. 授業内に「日本人の未婚化」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。
- 8-10. 授業内に「男性の育児」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。
- 11-12. 発表準備
13. 期末テスト(文法、語彙)
14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度25%、課題25%、提出物25%、期末テストおよび最終プレゼンテーション25%

テキスト

第2～4回は「若者の消費」に関する視聴覚教材、第5～7回は「日本人の未婚化」に関する視聴覚教材、第8～10回は「男性の育児」に関する視聴覚教材を使用する。内容理解のための教材は、履修者のレベル(J4-6)に対応したものを用意・配布し、学生は自分のレベルに合った教材を使用する。作文教材は、履修者の作文レベル(J4-6)に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	総合日本語4－6C Integrated Japanese 4－6C	新座
担当者	栗田 奈美 (Kurita, Nami)	
開講学期	秋学期	単位数 1 単位

授業の目標

J4からJ6の^{がくせい}学生を対象とする。学生が^{ちしき}知識として持っている^{ぶんけい}文型や^{ごい}語彙を、日常生活のみならず、大学での^{がくしゅう}学習や^{けんきゅう}研究活動の^{さまさま}様々な^{ばめん}場面で活用できる^{たか}レベルに^{めざ}高めることを目指す。

授業の内容

^{ぶんぽう}文法・^{ぶんけい}文型、^{どっかい}読解、^{ごい}語彙、^{さくぶん}作文、^{ちようかい}聴解会話について、^{ひろ}広く^{あつか}扱う。中級日本語Cでは、^{どっかい}読解^{そざい}素材を^{じく}軸とし、^{はつびやう}ディスカッションや^{さくぶん}発表、^{おこな}作文などを行う。テーマは「^{わかもの}若者」、「^{じよせい}女性」などを^{あつか}扱う。そのほかのテーマを^{あつか}扱う可能性もある。また、^{がくせい}学生^{ここ}個々の^{おあ}レベルに^{おあ}応じた^{ぶんけい}文型や^{ごい}語彙についても^{あつか}扱う。

授業計画

^{きやうしつ}教室^{じゆぎやう}授業と^{かだい}課題^{がくしゅう}学習を^{こうかてき}効果的に^あ組み合わせながら^{じゆぎやう}授業を進める。^{きやうしつ}教室^{じゆぎやう}授業では、^{さくぶん}ディスカッションや^{おこな}グループワークを行う。また、^{さくぶん}作文や^{どっかい}読解などの^{しゅくだい}宿題も^か課すため、^{さんか}参加者は^{じゆぎやう}授業^{じかん}時間外にも^あ与えられた^{かだい}課題を行わなければならない。

1. ^{じゆぎやう}授業^{がいよう}概要、^{かんが}ステレオタイプについて^{かんが}考える。
- 2-7. テーマ1に関する^{かん}読解^{どっかい}教材を^{しゅくだい}宿題として^よ読む、^{じゆぎやう}授業内では^{ない}内容^{りゆうり}理解の^{かくにん}確認、^{さくぶん}ディスカッション、^{おこな}グループ発表を行う。
- 8-12. テーマ2に関する^{かん}読解^{どっかい}教材を^{しゅくだい}宿題として^よ読む、^{じゆぎやう}授業内では^{ない}内容^{りゆうり}理解の^{かくにん}確認、^{さくぶん}ディスカッション、^{おこな}グループ発表を行う。
13. ^{きまつ}期末^{ぶんぽう}テスト(文法、^{ごい}語彙)
14. ^{さいしゅう}最終^{しやう}プレゼンテーション

成績評価方法・基準

^{しゅつせき}出席および^{さんかど}クラスへの^{かだい}参加度25%、^{かだい}課題25%、^{ていしゅつぶつ}提出物 25%、^{きまつ}期末^{ぶんぽう}テスト(文法・^{ごい}語彙)および^{さいしゅう}最終^{しやう}プレゼンテーション 25%

テキスト

^{だい}第2～7回、^{だい}第8～12回は各^{どっかい}テーマの^{どっかい}読解^{きやうざい}教材を使用。^{きやうざい}教材は、^{りしゅう}履修者の^{どっかい}読解^{きやうざい}レベル(J4-6)に^{たいお}対応したものを^{ようい}用意・^{はいふ}配布し、^{がくせい}学生は^{じぶん}自分の^あレベルに^あ合った^{きやうざい}教材を使用する。^{さくぶん}作文^{きやうざい}教材は、^{りしゅう}履修者の^{さくぶん}作文^{たいお}レベル(J4-6)に^{たいお}対応したものを^{しやう}使用する。

参考文献

^{じゆぎやう}授業で^{てきぎ}適宜^{しやうかい}紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

^{ひつよう}必要な^{じゆんび}準備^{がくしゅう}学習については、^{まいかい}毎回の^{じゆぎやう}授業で^{しじ}指示する。
^{りしゅう}履修者の^{ねんじ}年次や^{じしゆ}既習^{ないよう}内容によって^{しんどう}進度や^{ないよう}内容を変更する^あ場合がある。

科目名	総合日本語4－6D Integtared Japanese 4－6D		新座
担当者	谷 啓子 (Tani, Keiko)		
開講学期	秋学期	単位数	1 単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活のみならず、大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型、読解、語彙、作文、聴解会話について、広く扱う。中級日本語Dでは、視聴覚素材を軸とし、ディスカッションや発表、作文などを行う。テーマは主に「日本の四季」・「日本の伝統行事」などを扱う。また、学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業と課題学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では、ディスカッションやグループワークを行う。また、作文などの宿題も課すため、参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要

2-4. 授業内に「日本の冬の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。

5-6. 授業内に「日本の春の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。

7-8. 授業内に「日本の夏の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、

ディスカッションを行う。

9-11. 授業内に「日本の秋の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。

12-13. 発表準備

13. 期末テスト(文法、語彙)

14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度25%、課題25%、提出物25%、期末テスト(文法・語彙)および最終プレゼンテーション25%

テキスト

第2～4回は「日本の冬の伝統行事」に関する視聴覚教材、第5～6回は「日本の春の伝統行事」に関する視聴覚教材、第7～8回は「日本の夏の伝統行事」に関する視聴覚教材、第9～11回は「日本の秋の伝統行事」に関する視聴覚教材、使用する。内容理解のための教材は、履修者のレベル(J4-6)に対応したものを用意・配布し、学生は自分のレベルに合った教材を使用する。作文教材は、履修者の作文レベル(J4-6)に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。